

会 議 録

会議名 (審議会等名)	シビックプライド向上計画策定委員会 (第4回)		
事務局 (担当課)	観光・シティプロモーション課 電話 042-707-7045 (直通)		
開催日時	令和4年10月24日(月) 18時30分～20時00分		
開催場所	相模原市役所 本館2階 第1特別会議室		
出席者	委員	7人(別紙のとおり)	
	その他	0人	
	事務局	5人 (SDGs・シビックプライド推進担当部長、観光・シティプロモーション課長、他3人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 (仮称) さがみはらみんなのシビックプライド向上計画について 3 その他 4 閉会		

審 議 経 過

第2回会議について、主な内容は次のとおり。

1 開 会

2 (仮称) さがみはらみんなのシビックプライド向上計画について

事務局より、(仮称) さがみはらみんなのシビックプライド向上計画について、スケジュールと第1章から第3章までの修正点など説明を行った後、検討を行った。

主な意見は次のとおり。

(倉澤委員) 大変よくまとまったというのが第一印象。計画の中で使用されている用語などについては、これまで検討してきた委員としてはよくわかっているが、説明があったほうがよい。また、数字ありきの構成ではなく、本当に住みよい街を作った結果が数字にでるという流れはよいと思う。

(浅川委員) 流れが良くわかるようになり、見やすくなった。「ホームタウンチーム」という言葉にはなじみがなく、調べたりしていたので、用語については注釈があるとよい。

(黒田委員) 「ホームタウンチーム」については、定義を明確にしておいたほうがよいと思う。資料としては、順序立ててまとまっていると感じた。近年では若い世代の人が結論を急ぐ傾向にあり、構成については、最初に全体像が見えるサマリーがあるといいかもしれない。

(中村委員) 直感的に伝わる要約があるとよい。

(牧瀬委員長) 条例の時にリーフレットを作成したと思うが、本計画でも概要版の作成などご検討いただきたい。

(水本委員) 前回、場所や施設の提示だけでなく、そこでどういう人が、何ができる、というのがないとよいとお話したが、今回その点を意識して反映されたと受け止めている。シビックプライドは、市が何か作って、情報提供するだけではなく、どれだけ市民に参加してもらい、関わってもらえるのかが大事である。そうすると、施策も「こうした可能性があります」という形でよいのではないかと考える。

(羽生委員) 文脈として理解できる流れと受け止めている。構成としてこの内容でよいと考える。

(牧瀬委員長) 議論を踏まえ、第1章から第3章は案の構成で良いか。

(委員一同) 異議なし。

(牧瀬委員長) そのほか、本計画に掲載する市マスコットキャラクター「さがみん」のイラストを募集することだが、たくさん応募があった場合は、どのように

対応するのか伺いたい。

(事務局)「さがみん」のイラストを11月1日から募集する予定であるが、多数の応募があった場合は、この計画だけでなく、他の刊行物などに掲載させていただくよう、募集案内は工夫したいと考えている。

続いて事務局より第4章の説明を行った後、検討を行った。

主な意見は次のとおり。

(牧瀬委員長) 3ページの目標の部分について、「シビックプライド醸成」は、全体に関わるものとして、縦軸で通すとよいのではないかと検討していただきたい。

(浅川委員) カラーで見やすくまとまっているという印象がある。3ページについては、指標の表について、青い項目の意味合いがちょっとわかりにくかった。

(牧瀬委員長) 青い項目は、その下に連なる項目の説明で「シビックプライド醸成、継続居住支援」、「認知度向上」、「転入促進」としているもので、フォントを変えるだけでも変わるので、そうした点の工夫をお願いしたい。

(倉澤委員) 具体的な取組の中で、イベントや事業などが終わった後にどれだけ成果があったかなど結果のお知らせがあるとよい。

また、相模原市をみんなで回るようなバスツアーがあるといい。また、チラシは作って配架すればいいというのではなく、手に取ってもらえるように、伝わるように工夫が必要だと思う。

(牧瀬委員長) 行動計画については、例えば、お話のあったシビックプライド醸成ツアーであるとか、シビックプライドゲーム大会といったような今までにない事業というシンボルとなるような取組があるといいと考える。

(黒田委員) 伝えるための手法に入るまでの部分で、アピールポイントを伝えるだけでなく、それに色を加えるような、例えばメディアを誘致するとして、番組を作ろうとなると「食」は必須になる。その段階で、「ラーメン屋」が集結したり、名物を作ろう、などキャンペーンにしていくのも手法の一つである。そのように、今あるものを伝えていくには、さまざまな人との関わりでアイデアを付加していくと広がりが出てくると考える。また、デザインの部分に注力すると全体的に変わっていくと思うので、ぜひこの点を手法に反映してもらえればと考えている。

(中村委員) 文章に関しては、感情が伝わるような工夫がされるとよい。例えば「このまちは子育てしやすいのかな?」と見やすい位置に吹き出しがあって、それに対する答えがあるなど、そういう部分があるといいと思う。

(羽生委員) アピールポイントの4つについて、それぞれ独立したものではなくて、関連があるように思う。それぞれの関連を表現できるとなるとよいと思う。

(水本委員) アピールポイントの中に交流ツアーなどの記載があり、これまでの意見が反映されているものと受け止めている。伝えるための手法については、これを全部やっていけばということだが、どうやったら市民の方々が多く参加するのか、という仕組みづくりが大事である。その意味でファンサイトは大事な取組だと考える。取組は市民の関わりがあってコンテンツが生まれる。そういう仕組みづくりができてこそメディアも来てくれるというようになると思う。また、デザインについても重要であり、例えば地元で活躍するクリエイターを継続的に仕事として関わってもらおうようにする必要がある。

メディアについては、どういうものを作れば取材したくなるという方向はあるが、単に場所だけでは面白くない。人に着目したものや、実際何かあれば、提供するとよいかと思う。

(牧瀬委員長) 本日の意見を踏まえ、委員長と事務局で調整し、答申することで良いか。

(委員一同) 異議なし。

(牧瀬委員長) そのほか、委員のコラムはどのように依頼するのか。

(事務局) 策定の最終段階で掲載するように考えているが、テーマや文字数など整理の上、早めにご案内するようにしたい。

3 その他

事務局より、今後の本委員会の開催時期について日程は調整の上で、来年1月以降に実施予定である旨、説明を行った。

4 閉 会

以 上

シビックプライド向上計画策定委員会（第4回）委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	あさかわ 浅川 あゆ	学生		出席
2	くらさわ よしあき 倉澤 良明	公募委員		出席
3	くろだ ともなり 黒田 知誠	株式会社スポーツクラブ相模原 広報部 部長		出席
4	なかむら かずき 中村 和希	公募委員		出席
5	はぶ ひろと 羽生 宏人	独立行政法人宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 教授		出席
6	ひろた しずか 廣田 静香	公益社団法人 相模原青年会議所	副委員長	欠席
7	まきせ みのる 牧瀬 稔	関東学院大学 准教授	委員長	出席
8	みずもと ひろとし 水本 宏毅	株式会社読売広告社 都市生活研究所 エグゼクティブリサーチディレクター		出席
9	やまざき ゆうき 山崎 勇貴	公益社団法人 津久井青年会議所 理事長		欠席